

災害概略シート

項 目	内 容
災害の名称	1858 飛越地震
災害の種別	地震、(天然ダムの崩壊による) 洪水
概 要	飛越地震は、安政5年2月26日未明(1858年4月9日午前2時ごろ)、跡津川断層の活動によって発生した推定マグニチュード7.0~7.1(「理科年表」による)とされる直下型地震である。地震に伴い、立山連峰の大鳶山、小鳶山が大崩壊を起こし、常願寺川の源流部にあたる湯川及び真川を堰き止め、後に決壊して富山平野に大規模な洪水災害をもたらした。
時 代	近世(安政)
発生年月日	安政5年(1858)旧暦2月26日(新暦4月9日)
主な被災地域	飛騨、越中、加賀、越前。特に、飛騨北部、越中に被害が集中した。
被災規模	死者：平野部では、家屋の倒壊による圧死者が多く約20名。山間部では、山崩れによる死者を含め約250名。震災後に起きた土砂流災害による溺死者は約140名。 家屋の全半壊総数：約2,700軒
特記事項	本報告書では、飛越地震のマグニチュードを7.3~7.6と推定した。